

研究活動報告

日本地理学会2000年度秋季学術大会

日本地理学会2000年度秋季学術大会が2000年10月7～10日、鹿児島大学にて開催された。「海と陸のはざまでの「場所の力」 南九州と南の島々からの視座」と題されたシンポジウムの他、口頭82件、ポスター（コンピュータ）22件の発表が行われた。人口関連分野の報告について以下に紹介する。

- | | |
|------------------------------------|---------------------------|
| 「奄美における人口移動と「場所の力」 | 田島康弘（鹿児島大学） |
| 「首都圏周辺都市藤沢市の高齢者分布と地域特性」 | 畠山輝雄（日本大学・院） |
| 「神岡の高齢者はなぜ移動しないのか」 | 田原裕子（東京大学）、神谷浩夫（金沢大学） |
| 「DHS データを用いた人口移動分析」 | 井上 孝（青山学院大学） |
| 「東京大都市圏における通勤圏の変容」 | 田口 淳（専修大学・院） |
| 「韓国の大邱市における保育サービス施設の利用」 | 金 銀淑（金沢大学・院） |
| 「過疎地域における高齢者の介護サービス供給 - 岐阜県神岡町の事例」 | 柴田紀子（富山医療福祉専門学校） |
| 「近世三河国田原藩における戸口数データの動態と城下町プランへの影響」 | 林 哲志（愛知県立福江高校）
(江崎雄治記) |

日本人類学会第54回大会、およびサテライトシンポジウム

2000年11月3～5日、東京大学本郷キャンパス、山上会館において日本人類学会第54回大会が開催された。また、これに合わせて、4日にはプレナリーシンポジウム、5日にはサテライトシンポジウムが開催された。本学会の研究分野が多岐に渡っていることを反映して、大会ではいくつかの分科会ごとにシンポジウムを組織するとともに、一般口演もテーマによって専門分野に分類され報告が行われた。

- シンポジウム（進化人類学分科会）「共存の維持と破綻 ヒト科の多様性と種間関係をいかに理解するか」、組織者：黒田末壽（滋賀県立大）
- シンポジウム（キネシオロジー分科会）「脊柱」、組織者：松村秋芳（防衛医大）・史常德（獨協医大）、討論者：服部恒明（茨城大）・馬場悠男（国立科学博物館）
- シンポジウム（ヘルス・サイエンス分科会）「老化と運動機構 ヘルス・サイエンスの視点から」、組織者：岡田守彦（筑波大）、司会：植竹照雄（農工大）
- シンポジウム IV 「色覚遺伝子研究の展望：脊椎動物としてのヒト」、組織者：河村正二（東京大）

一般口演の分類は、(1)遺伝、(2)生態、(3)形態・古人骨、(4)先史・古人骨、(5)成長・老化、(6)生体機構、(7)先史・古人骨、(8)形態とされていた。このほかポスターセッション（3、4日）も行われている。各フロアでは活気に満ちた討論が行われていたが、とくに大会会期中に高森・上高森旧石器遺跡